

7/20
日付

「カクテル療法」特例承認

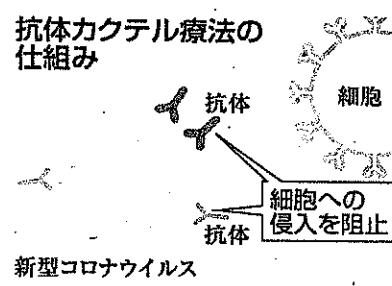
コロナ新薬2種 軽症者に使用可

厚生労働省は十九日、中外製薬が申請していた新型コロナウイルス感染症の「抗体カクテル療法」に使う二種の新薬を特例承認したと発表した。基礎疾患がある高リスクの軽症者や中等症の患者に投与し、重症化を抑える効果が期待される。国内で効果が検証されて使用が認められた薬は四種類目で、軽症者に使えるのは初。二十日から政府が確保した薬の医療機関への配達を始める。

現在十八歳以上となっている米モデルナ製の新型コロナワクチンの対象年齢について、添付文書を改訂

し十一～十七歳にも広げる

ことを厚労省の専門部会が了承した。ただ現状では、職場や大規模接種会場での



需要に供給が追い付いていないため、子どもへの接種がどう進むかは不透明だ。

抗体カクテル療法は「カシリピマブ」と「イムーデビマブ」と呼ばれる二種類の

世界の新型コロナウイルス感染者

抗体医薬品を使用する。基礎疾患などの重症化リスクがある入院患者を対象とする。イス製薬大手ロシュと米製薬企業リジエネロン

が新たに開発したもので、海外の臨床試験では、入院や死亡のリスクを七割減らす効果が確認された。

米国	3408万0007 (60万9021)
インド	3114万4229 (41万4108)
ブラジル	1937万6574 (54万2214)
フランス	592万9929 (11万1662)
ロシア	588万4593 (14万5975)
インドネシア	287万7476 (7万3582)
タイ	41万5170 (3422)
韓国	17万9203 (2058)
中国	10万4290 (4848)
オーストラリア	3万2017 (915)
世界 全体	1億9044万1654 (408万9175)

※19日現在、単位は人。感染者の多い5カ国とアジアの主要な国。
()内は死者数
米ジョンズ・ホプキンズ大学による

で知られる。厚労省は審査を簡略化する特例承認の手続きに沿って審査を進めてきた。

海外の臨床試験では、入院や死亡のリスクを七割減らす効果が確認された。供給量が限られるため、承認後は国が管理し患者の費用負担は発生しない見通し。モデルナ製ワクチンは、後日、別の会合を開いて予防接種法上の「臨時接種」と位置付けたことを決める。

モデルナ製 12歳以上に拡大

現在十八歳以上となつている米モデルナ製の新型コロナワクチンの対象年齢について、添付文書を改訂

し十一～十七歳にも広げる

ことを厚労省の専門部会が了承した。ただ現状では、職場や大規模接種会場での